令和2年9月19日

残暑に沢登り気分満喫な棒ノ嶺

秋風が恋しいどころか年中秋風吹いて、凍てついている仲間が飯能駅に集合

歩行4時間30分距離9．6km標高差登り716m下り732m

一心会アーカイブス：平成26年12月13日棒ノ嶺のアルバムより

今健在なりとも5年後一人、10年後一人と没していきます

６年経った今、果敢に登頂の棒ノ嶺、ボーッとしてんじゃないぞ

登山届けと有休届けは登山者仕事人のマナー　　常識なくとも標識あり、棒ノ嶺はこちら

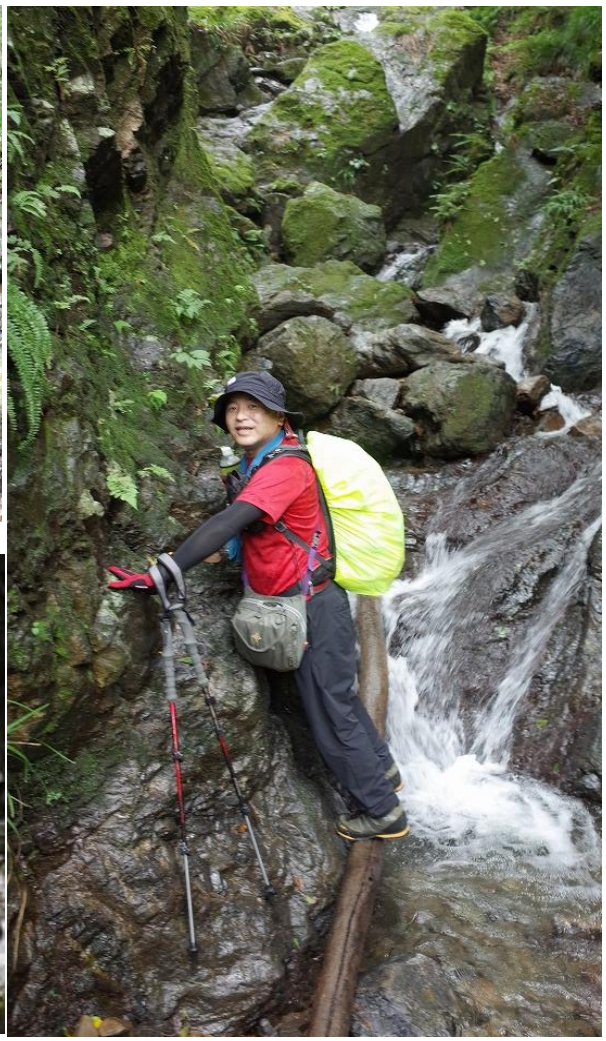
我々の気持ち、性格とはうらはらに真っ直ぐに伸びた松小立ちを行きます

これがなくては始まらない『看板は』岩茸石経由棒ノ嶺、沢登りの開始

ここ、ここが１番の難所の場所ナンショ、記念の写真撮りましょうね

水噴き出したような、岸壁がのしかかってくる（ゴルジュと言う）迫力

渡る渓流に橋はなし



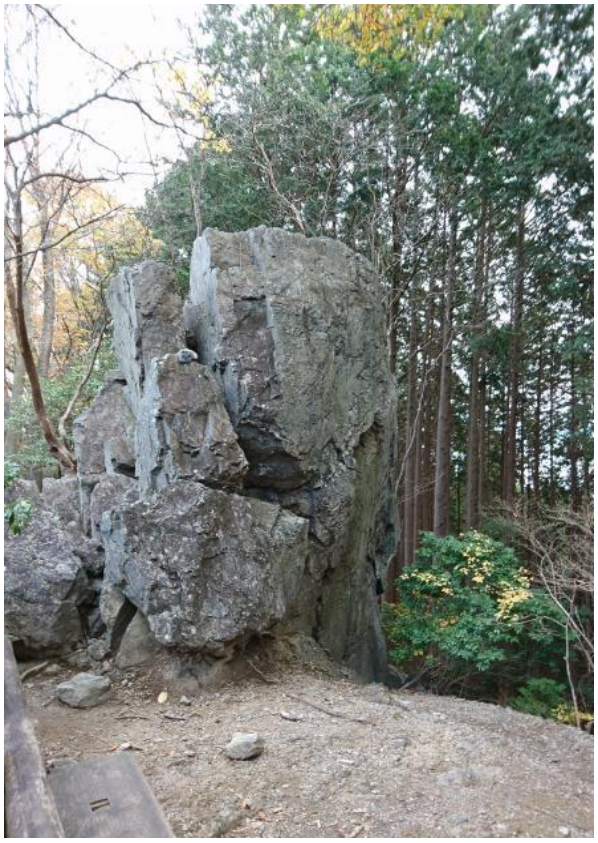
まさにくさりにロープ、これにローソク、さるぐつわの世界

岩にへばりつきながら進みます

人生と同じく身の置き場、立場がない

沢を超えこの木段を登れば尾根に出る

分岐岩茸石ここから頂上往復

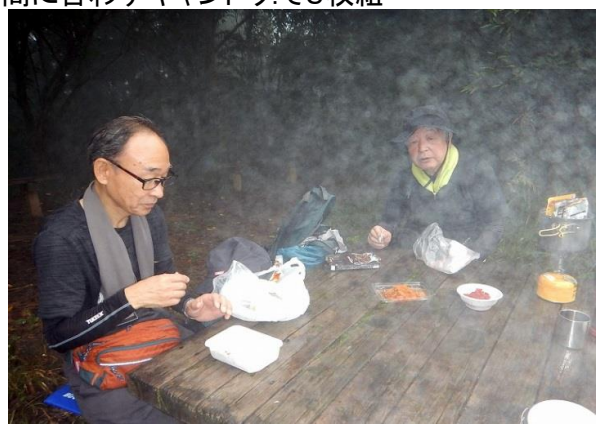


ゴンジリ峠の休憩所

棒ノ嶺頂上

頂上はポツリぽつりの雨とガスが出てきたでガス

能登皇室献上吟醸米に九谷焼の器、間に合わずキャンドウ.で3枚組



さわらびの湯

西川材の魅力を存分に伝える内湯大浴場

旧名栗村エリア特産の杉や檜の西川材の魅力を存分に伝える内湯大浴場。力強く大屋根を支える檜の磨き丸太柱。壁面や天井部は湿度調整が得意な杉の節板。腰壁と床面は落ち着いた色調の石造りで引き締める。男女浴場の境は杉壁が仕切るが、上部の三角形の飾り窓が空間をつなぐ。

大浴場には天井までとった窓に面して、14～15人入れる大きさの浴槽が1つ。湯温は約40度に設定し、ジェット噴流が2本、中央は気泡が底面から立ち上るバイブラバス仕立て。檜の湯縁で浴槽内は石造りとなっている。思い思いの場所で窓の外に広がる緑の山々を眺めて、のんびりくつろげる。その隣にある小さな湯船は以前あった打たせ風呂の名残。

大浴場の一角には室温約50度の「スチームサウナ」があり、5席並ぶチェアに座って、じっくり汗をかける。

洗い場は男女各9席ずつ。ボディソープ＆リンスインシャンプーを備え

打ち上げは飯能駅前餃子の満州で、奥村さんの役職が決まり、名刺が出来上がりました